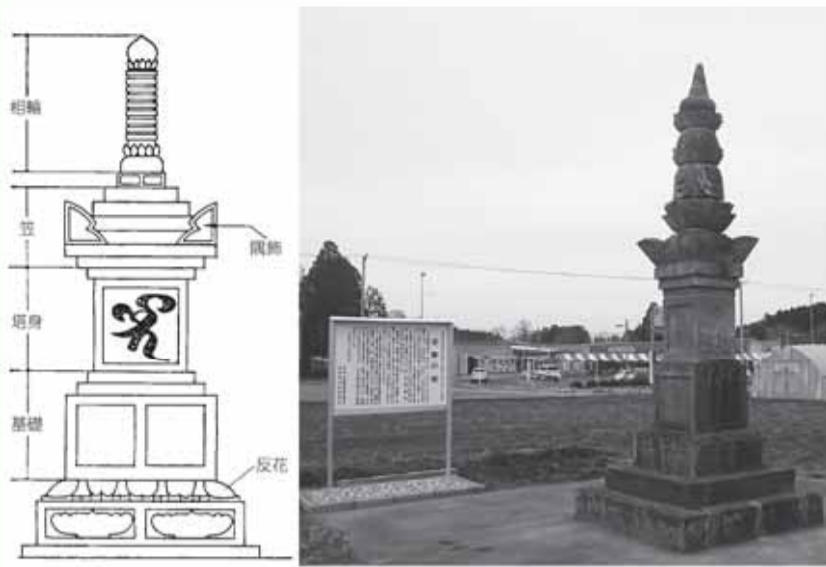


## 「沢の宝篋印塔」 市内最大級の石造物



▲沢の宝篋印塔

道の駅くりもとの南、道路を挟んだ向かい側に沢地区の共同墓地があります。その東端の一角に宝篋印塔と呼ぶ大きな石造物が建っています。総高は約3・4mもあり、市内に残る石造物の中でも最大級の規模を誇ります。

宝篋印塔とは供養塔の一種です。宝篋印陀羅尼経を納めたことからその名が付いていますが、他のものを納めても同形のもは宝篋印塔と呼びます。鎌倉中期以降に宗派を問わず造立が盛んになりました。多くは、基壇上に基礎、塔身・笠・相輪を積み上げる形をとっています。

沢の宝篋印塔は、刻銘から寛文7年（1667）に造立されたものです。基礎部の石の3面に「首題一萬部・澤村真俗中／成就所／欽建之・寛文七丁未・四月上旬八日」とそれぞれ文字が刻まれています。沢村の信者が法華経一萬部を捧げて供養した証として造立したものと思われ、基礎の下に基壇と一体となっ

た反花座が刻まれ、笠の四隅にはやや反り返った隅飾と呼ぶ突起が施されているのが特徴です。また、相輪から基礎にかけて「妙・法・蓮・華・経」の五文字の題目が刻まれています。これも大きな特徴の一つです。

他所の指定文化財の類例を見ると、基礎や笠が太く、全体的に安定感がありますが、この宝篋印塔は、時代的な傾向なのか、基礎から笠にかけて細く、その上にやや太めの相輪が重ねられていることから、上に向かうにつれて細く尖った形をしています。

ちなみに宝篋印塔は、地域や年代により形状の相違がありますが、大きくは関東型と関西型に分けられます。関東型の特徴は、塔身に輪郭をつけ、基礎の下に反花座を加えますが、この宝篋印塔もその特徴を有しています。昭和57年3月16日に市文化財に指定されました。問い合わせ 生涯学習課 ☎(50)1224

# 文芸

## 作品募集

はがき1枚に俳句2句・短歌2首のどちらかと、本名、住所、電話番号を記入し、〒287-8501 広報かとり「俳句」または「短歌」の係まで。毎月15日までの到着分を審査し、翌月号に掲載。掲載される作品は、選者により評を踏まえて添削される場合があります。

## 香取俳壇 増田 斗志選

誦訪 延子（白井）

評・この一句は、「せせらぎと木の芽」の春を詠んではすがすがしい。小野川沿いの風景を思う。写生を本意とした中での「光にあそぶ」のつぶさな表現が見事に生かされて鋭い。何よりも躍動感があつてよい。

## 震災の後遺症なる隙間風

閑 いさお（三島）

肉無しのライスカレーや昭和の日

嶋田 武夫（下飯田）

梅の香や門にたたためる歴史あり

釜谷 けい子（三島）

水郷の流れは太し春の水

郡 香織（下小川）

傍らの着膨れ笑い着膨れず

尾形 哲雄（木内）

## 香取歌壇 稲村 恒次選

逝きし母の未だも夢に現れず介護に足らざるものありしや 鈴木 一満（八筋川）

評・生前の母への介護は最善を尽くしてきた筈なのに、葬送の後にはふと胸に湧く亡き母への厚い思いである。亡き母が一度も夢に現れない現象を捉えての反省で、広く共感されよう。

感情のおもむくままの三歳児に浮かぬ顔する技も加わる 伊藤 かつ江（津宮）

白鳥の去りたるあとの北浦の湖を夕陽はやさしく包む 木内 幸子（八日市場）

白寿まであと十年となりたれば鏡のわれに活を入れたり 閑 いさお（三島）

初浸し種蒔く自作農の減りわが集落も詩くは十二戸 宮崎 弘（白井）

落のとうの香しき味噌口中にひろがり春は一気に来たり 山本 美津江（阿玉台）

# 編集後記

昭和2年ごろから運航を開始し、この3月をもって運航を終えた富田渡船。取材に伺った日は、小見川北小学校の修了式のため、児童を乗せた最後の運航となりました。

当時、私も、小中学校と通学でお世話になった1人ですが、下校時、運航時間に間に合わず、船着き場で1時間過ぎたこと、霧の濃い朝、対岸の船着き場が見えず、みんなで探しあつたことなど、懐かしく思い出しました。

11年間、朝夕と子どもたちを安全に送り届けた小川船頭さん。長い間、ご苦労も多かったと思いますが、本当にお疲れさまでした。そして、富田渡船、たくさんのお出でありがとうございました。

(K)

## 今月の納期限 4月30日(火)

固定資産税 (1期)